

収蔵品展「山と川と暮らし」

会期：令和7年 9月13日（土曜日）から
11月30日（日曜日）まで

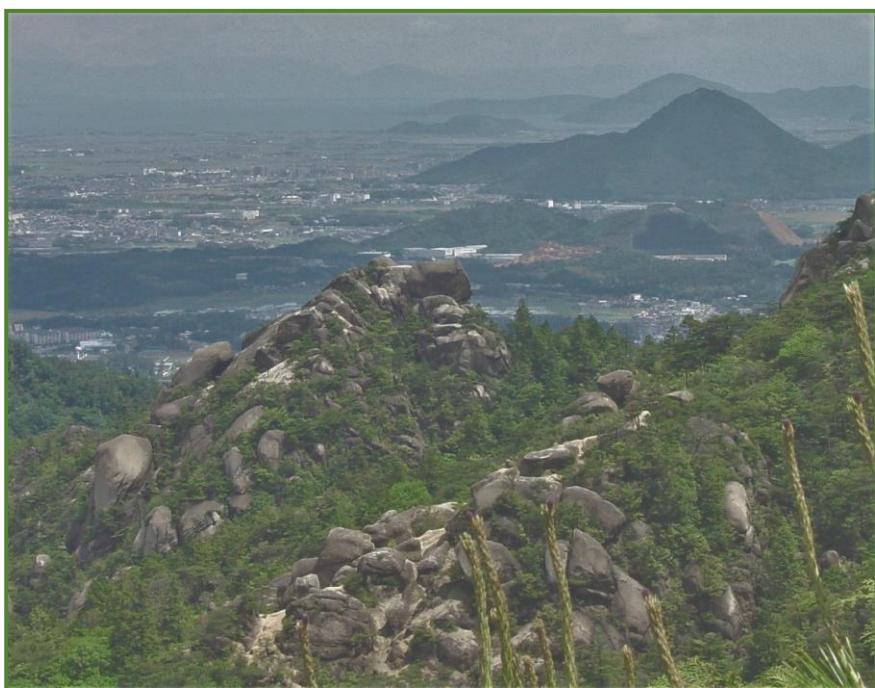
開館時間：9時30分から17時まで（ご入館は16時30分まで）

入館料：無料

会期中の休館日：9／16（火）・22（月）・24（水）・29（月）
10／6（月）・14（火）・20（月）・27（月）
11／4（火）・10（月）・17（月）・25（火）

【展示解説会】

9月23日（火・祝）、10月13日（月・祝）
11月24日（月・休）
いずれも14時から（1時間程度）



金勝山の風景



日向山から野洲川を望む

【同時開催】

- ロビー展示「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025記念展」
（9月13日土曜日～11月30日日曜日）
- ミニ展示「ミュージアム動物苑」
（10月1日水曜日～11月3日月曜日・祝日）

主催：栗東歴史民俗博物館（滋賀県栗東市小野223-8）
TEL：077-554-2733、FAX：077-554-2755



収蔵品展「山と川と暮らし」

会期：令和7年 9月13日（土曜日）から11月30日（日曜日）まで

江戸時代、栗太郡に点在していた現在の「大字」に相当する村々は、規模の大小はあれど、いずれも主に農業を生業としていました。

石高制を基盤として運営されていた当時の村では、安定した生産が求められ、そのため山野の入会権や灌漑用水の確保が村にとって最優先の課題となっていました。人々の生活は、山や川といった自然と深く結びついており、これらは暮らしに欠かせない存在だったのです。このような生活様式は、昭和時代の高度経済成長期まで受け継がれてきました。

本展覧会では、栗東歴史民俗博物館が収蔵する民俗資料（民具）や古絵図などを通じて、山や川が人々の暮らしと密接に関わっていた時代の姿を振り返ります。

「四季耕作図蒔絵付黒蠟色膳・椀」二十人揃えを展示します！



四季耕作図蒔絵付黒蠟色膳・椀（個人蔵）

「用水から水を引く」

種まき、田植え、秋の収穫など春夏秋冬の農事風景を描いた絵を「四季耕作図」といいます。

栗東歴史民俗博物館では、20の場面からなる農事風景を蒔絵として施した、江戸時代から明治時代頃の二十人揃えの膳・椀（個人蔵）を収蔵しています。農事風景が蒔絵として施される膳・椀が残されているのは珍しく、かつての農作業の手順や道具を知る格好の資料として貴重なものです。

かつての暮らしを今に伝える資料として、収蔵品展「山と川と暮らし」の中で紹介します。

【栗東歴史民俗博物館旧中島家住宅で使用する薪の安定供給に関する連携協定】締結！！

5月29日に栗東歴史民俗博物館で、栗東市・金勝生産森林組合・株式会社しびりこの3者による「旧中島家住宅のかまどで使用する薪の供給に関する連携協定締結式」を行いました。協定により金勝地域の森林整備で発生する未利用間伐材をかまどの薪として活用することができ、環境学習への展開等、教育の充実にも寄与することとなります。

当日は職場体験の中学生が式典の補助として参加し、協定が締結されました。

